

1. 日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請書 受理年月日 年 月 日(事務局記載)

一般社団法人 日本周産期・新生児医学会
認定外科医委員会 委員長 殿

専門領域(該当する専門領域にチェックを入れてください)

☐小児外科 ☐脳神経外科 ☐心臓血管外科 ☐泌尿器科 ☐その他()

私は日本周産期・新生児医学会 認定外科医について、必要書類及び申請料を添えて申請いたします。

ふりがな				(西暦) 年 月 日 生 歳	
申請者氏名 (認定証記載名)				性 別	☐ 男 ・ ☐ 女
医籍登録番号		第 号	医籍登録年月日		(西暦) 年 月 日
外科系診療科		(西暦) 年 月 日	日本小児外科学会*		(西暦) 年 月 日
専門医取得年月日			指導医認定期間		～ 年 月 日
専門医番号			指導医番号*		
会員番号			入会年月日		(西暦) 年 月 日
自宅住所		〒 -			
勤務先	名称	(所属科名)			
	住所	〒 - 電話 - - (必須)E-mail			
(西暦) 略 歴 (卒業大学と入会年月から現在まで、最大10項目まで記載する)					
年 月		大学 卒業			
年 月					
年 月					
年 月					
年 月					
年 月					
年 月					
年 月					
年 月					
年 月					

※認定証は、会員情報に登録されている「送付先」に送付する。申請書提出後に異動した場合は、会員ログイン後のマイページあるいは「会員登録の変更」内の「変更オンライン登録」から「送付先」の変更を行い、速やかに事務局に連絡すること。

*: 日本小児外科学会指導医資格を取得している場合は、症例要約の提出は不要です。日本小児科学会の指導医認定証を提出してください

2. 症例要約の総括

1. 新生児外科手術症例(日齢 30 までに手術を施行)	例	(10 例以上)
2. 新生児期は診断のみ行い、日齢 31 以降に手術を施行した症例(施行予定を含む)	例	(5 例以下)
3. 出生前診断症例	例	(3 例)

注 1:1 は、記載が必須

注 2:新生児領域のみが本会の専門医制度の認定施設になっている場合には、3. 出生前診断症例(3 例)の記載を免除し、2 の症例を記載することができる

注 3:母体・胎児領域も本会の専門医制度の認定施設として承認されている場合は、3. 出生前診断症例 3 例を記載することが必須

※認定施設や施設番号は、下記 URL で確認できる

新生児:<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

母体・胎児:<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 1		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 2		施設番号		
西暦	年 月 日	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】: 【診察所見】: 【診断の根拠となった検査所見】: 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】: 【入院後経過と考察】:				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jspsnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 3		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】: 【診察所見】: 【診断の根拠となった検査所見】: 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】: 【入院後経過と考察】:				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 4		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 5		施設番号		
西暦	年 月 生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 6		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 7		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 8		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 9		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 10		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 11		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 12		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】: 【診察所見】: 【診断の根拠となった検査所見】: 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】: 【入院後経過と考察】:				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 13		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している。

注:母体・胎児領域が研修施設ではない場合、新生児症例 15 例でも申請可とする。出生前診断用を記載する場合は、症例番号 13～15 は不要。

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 14		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】: 【診察所見】: 【診断の根拠となった検査所見】: 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】: 【入院後経過と考察】:				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 15		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<http://www.jsnrm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 1		施設番号		
西暦	年 月 日生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している。

※所属している施設が、本会の専門医制度で母体・胎児領域の研修施設の場合は、症例要約-2 (出生前診断用) の症例を必ず 3 症例記載する。

2. 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 2		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可).

2. 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 3		施設番号		
西暦 年 月生	男 ・ 女	在胎 週 日	出生体重 g	
診断名	診断名： 出生前診断：有 ・ 無			
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な1件を記入	手術時日齢： 術式名： 手術時の役割： 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手			
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴				
妊娠分娩経過				
【現病歴】： 【診察所見】： 【診断の根拠となった検査所見】： 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】： 【入院後経過と考察】：				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している.

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する.

<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を1ページ以内に収める(ページ追加は不可).

3. 指導医推薦状（新生児症例用）

私は、指導医として、 _____ (認定外科医申請者名) の

症例要約を、新生児症例として適切であることを認めます。

指導医名(自署) _____

施設名 _____

新生児指導医は以下の URL で確認できる。

<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiS.aspx>

指導医推薦状（出生前診断用）

私は、指導医として、 _____（認定外科医申請者名） の

症例要約を、母体・胎児症例として適切であることを認めます。

指導医名（自署） _____

施設名 _____

注：新生児症例を 15 例提出する時は不要。

母体・胎児領域の指導医は以下の URL で確認できる。

<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiB.aspx>

4. 取得単位集計表

【必須単位】			
(1) 日本周産期・新生児医学会	10 単位	参加 回	単位
	5 単位	発表 回	単位
(2) 周産期学シンポジウム	10 単位	参加 回	単位
	5 単位	発表 回	単位
(3) 日本産科婦人科学会・日本小児科学会・日本小児外科学会	5 単位	参加 回	単位
	5 単位	発表 回	単位
(4) 学術論文(査読あり) (筆頭または corresponding author として発表)	10 単位	編	単位
(A) (1)～(4)の合計 (<u>10 単位以上</u> が必要)			単位
【その他の単位】			
(5) 学術論文(査読あり) (共著者として発表)	5 単位	編	単位
(6) 学術論文(査読の有無を問わない) (筆頭著者として発表)	5 単位	編	単位
(7) 日本新生児成育医学会・日本麻酔科学会・日本母体胎児学会	5 単位	参加 回	単位
	5 単位	発表 回	単位
(B) (5)～(7)の合計			単位
(A) + (B) 総合計 (<u>20 単位以上</u> が必要)			単位

参加・発表の単位は、申請する年の3年前の7月1日から申請年の7月31日までの期間に限り記載できます。

発表及び論文は、新生児外科領域に関連するものに限りです。

※1: 学会での発表は、新生児外科領域の筆頭演者に限ります。抄録のコピーを1部添付してください。

※2: (4), (5)の学術論文は、本学会の認める査読制度のある学術雑誌で、かつ査読を受けた論文に限ります。別刷(コピー可)を1部添付してください。(6)は査読制度の有無を問いません。別刷(コピー可)を1部添付してください。

※3: 投稿中の論文は受理票及び論文のコピーを添付してください。

5. 学術集会参加記録簿

参加日 (西暦)	学術集会参加証貼付	必須 単位	その他の 単位
小 計		単位	単位
合 計		単位	

- ・学術集会参加記録簿は、必要な枚数をコピーして使用してください。
- ・参加証はオリジナルの提出が原則ですが、名前の記載がある参加証はコピー可とします。
- ・学術集会発表の場合は、抄録のコピーを添付してください。
- ・第 38 回周産期学シンポジウム(2020 年 2 月開催)の参加証明は、参加証と出席証明書両方の提出が必要です。
- ・第 42 回周産期学シンポジウムの単位証明は、要領の p8 参照

6. 学術論文刊行記録簿

著者名, 論題, 誌名, 発行年, 頁の順に記入	単位	査読*
合 計	単位	

- ・ 新生児外科領域に関連した論文に限ります.
- ・ 学術論文は別刷 (コピー可) を添付してください.
- ・ 取得単位集計表 (4), (5) の場合は, 論文が査読を受けていることを必ずご自身で確認してください.
- ・ * : (4), (5) については, 査読があることを確認後, 査読欄に○印をつけてください.

1. 症例要約簿記載例

1) 症例要約-1 (新生児症例用)

※新生児外科手術症例(生後 30 日までの期間に手術された症例)を 10 例以上記載すること

症例番号 1		施設番号	NA00000
西暦 2015 年 2 月生	男 ・ 女	在胎 26 週 3 日	出生体重 820 g
診断名	診断名:特発性小腸穿孔 出生前診断: 有 ・ 無		
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢: 6 術式名: 小腸部分切除術 手術時の役割: <u>術者</u> 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手 どこか 1 つ選んで○を付ける		
転 帰*	<u>生存退院</u> 死亡退院 転院・転科 入院中 その他		
家族歴	特記事項なし どこか 1 つ選んで○を付ける		
妊娠分娩経過	母 35 歳、1G1P。胎児仮死にて在胎 26 週 3 日に緊急帝王切開となった。 Apgar 3/7。		

【現病歴】:胎児仮死のため緊急帝王切開で出生し、前医NICU入院。新生児呼吸窮迫症候群の診断でサーファクタントを使用した。動脈管は自然閉鎖を確認した。
日齢3より母乳を開始したが、日齢6に腹部膨満、腹壁色調不良、腹腔内遊離ガスを認め、同日当院NICUへ搬送となった。

【診察所見】:腹部は著明に膨満し、腹壁の色調は暗緑色を呈していた。

【診断の根拠となった検査所見】:

胸腹部 X 線:腹腔内遊離ガスを認めた
腹部超音波検査:混濁した腹水の貯留あり

【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】:全身状態は保たれていたため、搬送同日(日齢6)に手術を施行した。上腹部横切開にて開腹すると、混濁した腹水を認めた。回腸末端から約5cm口側の部位に径8mm大の穿孔を1ヵ所認め、特発性小腸穿孔と診断された。一期的吻合の方針とし、穿孔部を切除後、端々吻合を行った。

【入院後経過と考察】:日齢10より経腸栄養を開始し、順調にミルクアップ可能であった。また、超低出生体重児ではあるが、周術期の状態は安定しており頭蓋内出血などの合併症を認めず、術後経過は良好であった。

- すべての項目を 12 ポイントで記載する
- 具体的な病院名・施設名の記載はしない
- 誤字・脱字がないか確認する
- 略語を多用せず、初出時は略語のみではなくフルスペルを記載する

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する。

<https://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可)。

2) 症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 1		施設番号	PA00000
西暦 2016 年 11 月生	男 ・ 女	在胎 36 週 6 日	出生体重 3902 g
診断名	診断名: 仙尾部奇形腫 出生前診断: 有 ・ 無		
新生児期の手術 ※手術した場合のみ、複数回 手術時は代表的な 1 件を記入	手術時日齢: 1 術式名: 仙尾部腫瘍摘出術 手術時の役割: 術者 ・ 指導助手 ・ 第一助手 ・ 第二助手		
転 帰*	生存退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他		
家族歴	特記事項なし		
妊娠分娩経過	妊娠 35 週 2 日に胎児超音波検査で異常を指摘され、当院産科紹介。胎児 MRI で仙尾部奇形腫と診断され、予定帝王切開による娩出の方針となった。		
【現病歴】: 在胎36週6日に予定帝王切開にて出生。出生直後に気管内挿管を行い、腫瘍を保護して NICU 入院となった。 【診察所見】: 外表所見に異常を認めず。腹部は平坦・軟。臀部に児頭大の腫瘤を認めた。 【診断の根拠となった検査所見】: 胸腹部 X 線: 胸腹部に異常なし。腫瘍内に石灰化病変を認めた。 超音波検査: 先天性心疾患なし。腹部に異常所見なし。仙尾部腫瘍内は嚢胞性成分が 7 割を占め、残りの 3 割に充実性成分を認めた。Altman 1 型と診断した。 【上記手術所見の詳細(手術した場合のみ)】: 全身状態は安定しており、日齢1に手術を施行した。出血予防として、開腹下に正中仙骨動脈の結紮を先行して行い、臀部より腫瘍を摘出した。出血量は20g、腫瘍は重量1200gであった。 【入院後経過と考察】: 病理診断は成熟奇形腫で、術後経過良好にて日齢30に退院となった。術後に排便障害、排尿障害、下肢の運動障害は認めず、AFPにて再発モニタリングを行った。出生前診断例であり、産科、新生児科、小児外科、麻酔科、および各病棟看護師など関係する多職種合同で症例検討を行い、周産期・周術期に十分な準備を行って臨むことができた。			

*: 入院中: 主科を問わず外科の治療を継続している 転科: 他科主科となり外科の治療は終了している。

※所属している施設が、本会の専門医制度で母体・胎児領域の研修施設の場合は、症例要約-2 (出生前診断用) の症例を必ず 3 症例記載する。

【記載上の注意】

母体・胎児領域の施設番号は、下記 URL で確認する

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する。

<https://www.jsnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

2. 現病歴から考察までを枠内に記載し、全体を 1 ページ以内に収める(ページ追加は不可)。